



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：革命3周年記念日にテロ事件・抗議行動 / 大統領選挙について

1. 革命3周年記念日の事件

(1) カイロで4件の爆弾テロ事件

24日(金)現地時間午前6時半頃、カイロ治安局前(アブディーン地区)で爆弾を搭載した車が爆発し、4人が死亡、76人が負傷した。1時間後、地下鉄ベホース駅近く(ドッキ地区)で、走行中の警察車両に爆弾が投げつけられ、1人が死亡、11人が負傷した。またピラミッド近くのタルビヤ地区の警察署でも爆発事件があった。同日午後には、ハラム地区の映画館近くで爆発があり、1人が死亡、4人が負傷した。これら爆弾テロ4件につき、シナイ半島を拠点とする過激派「エルサレムのアンサール団」が、事件当日に犯行を認める声明を発表した。カイロでのテロ事件が発生する数時間前、同組織幹部とみられるアブー・ウサーマ・ミスリーが、エジプト治安当局への攻撃予告とされる音声声明を発表していた。

(2) ムスリム同胞団支持者と治安部隊の衝突

24・25日、カイロ、ギザ、ミニヤ、アレキサンドリア他で、ムスリム同胞団支持者と治安部隊が激しく衝突し、29人が死亡、数十人が負傷した。内務省は、許可なしでデモを行ったことを理由に1,079人を逮捕した。また、ムスリム同胞団メンバー375人(うちリビア人が2名)を逮捕したとも発表した。

2. 大統領選挙を先に実施

26日、マンスール大統領は、改正憲法が承認された1月18日から30日以上90日以内に、大統領選挙を実施するという内容の大統領令を発出した。これによれば、2月17日～4月18日の間に大統領選挙が行われることになる。大統領選挙と議会選挙の実施日程を定めた改正憲法230条には、どちらを先に実施するか明記されていなかった。

(金谷研究員)